

学校便り 大手前中・高等学校

2011年に両中高創立60周年を迎えるにあたり



追手門学院大手前中・高等学校 校長 南 登章生

今、両中高が2011年に創立60周年を迎えることから、更なる発展とブランド力構築のために、今日まで培われた歴史や教育の航跡の残された資料などの整理を進めています。今後整理が進む中、不足する資料などを、皆様にご提供のお願いを申し上げます。

これは、先に創立120周年記念式典事業を推進する時、学校史整備委員会等でも学院の歩みの中で多くの新資料のご提供や新発見が見られましたことから、特に、中高では、創設時の昭和22年頃の

資料の收拾が必要とされ、卒業生の皆様からの当時の学校様子の聞き取りや散逸しつつある資料の保存と学内での展示等も考えています。

この時期、まさに「温故知新」、中高のルーツを顕彰することで、より確かな伝統伝承の確認、発掘から、更なる発展の礎にと考えます。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

刻印石のルーツが解明される

学校整備委員会事務局 宮本 直和

大手前中高等学校の南館裏庭に、昭和55年に発掘された大坂城の三の丸から出土した刻印石が、放置されたままになっていた。このたび、卒業生から舎密局の調査依頼が契機となって、学院の学校史整備委員会で刻印石の調査を行うことに決定し、大阪市教育委員会文化財保護担当森副主幹、〈財〉大阪市文化財協会小倉学芸員、前大阪城天守閣中村館長の全面的なご協力を得て、この程、第一次調査、第二次調査、第三次調査が終了した。

この結果、これまで不明であった刻印石（三つの内の二つ）は、江戸初期（元和6年以降）の大坂城再築時の加工石であり、「井」形と「十」形の二つが組み合わせられた刻印であることが確認できた。その特定が、三回の調査で順次進められ、最終的に、築城史研究会の『大坂城 石垣調査報告書（二）』で確認されている桜門横にある「4721」号壁の刻印と一致することが判明した。この丁場は、細川越中守のものであることが知られており、ここから本学

の刻印石が細川家の手による刻印石ということが、前大阪城天守閣館長中村博司氏により確認された。

何故、本学敷地内から発見されたかという疑問に対しては、こう答えられた。

「本学院に最も至近距離にあり、京街道に面した乾槽下の石垣（その対岸の石垣を含む）を担当したのが、この細川越中守であり、その普請の際に石垣に使わずにおかれた花崗岩の残念石といえよう。産出地は、六甲山系であり、さらに言えば芦屋といえよう。」

今後、校内に説明板等を設置し、数年後の校舎改築時に、他の史跡と合体させて、これらの刻印石を配置した野外展示コーナーが整備される予定である。



森田和明 法律事務所

弁護士 森田 和明
弁護士 岡本 圭史

お気軽にご相談下さい

〒530-0047
大阪市北区西天満6丁目3番11号
梅田ベイス・ワン6階606号
電話 06-6361-8613
FAX 06-6361-8617
E-mail morita-law@waltz.ocn.ne.jp

森田 和明

小 72・中高 15期

医療法人 信和会 塩見 医院

内 科 | 循環器 | 在宅診療



理事長 塩見 啓二

大阪市港区市岡元町2-11-4
TEL (06) 6586-5000
FAX (06) 6586-5001

塩見 啓二

小 85・大中高 28期

深田司法書士事務所 深田 壯

〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目 2-29
(大阪法務局南・司法書士センター内)

TEL 06-6941-6920 FAX 06-6941-6930

深田 壯

小 82・大 中 25・茨高 25期